



社会貢献大賞表彰式・助成金贈呈式 第二報

♡ 堀田会長による創立10周年記念講演要旨

7月23日に第一ホテル東京で開催した「第10回社会貢献大賞表彰式・平成27年度助成金贈呈式」における、式典冒頭の堀田力会長の創立10周年記念講演の要旨です。

「10周年ということで話す機会を頂戴しましたが、これまでの10年、これからの10年を一緒に考える機会になれば嬉しいと思っています。

社会貢献大賞としての表彰数はこれまでに125件、助成事業は257件、総額6億1千万円になります。これだけの方々の活動をお支えすることは、大変素晴らしい大きな成果であると思っています。

私が会長をお引き受けした翌年、大変不幸な東日本大震災があり、全国の全日遊連組合員の皆様は直ちに現地に赴き素早い支援を実施しました。それ以降、大震災からの復興を大きなテーマに、機構が地道な地方の活動を支えるなど、行政の手の届かないところへ、日本で一番必要などころへの支援をしてきたことは本当に頼もしく、心強く感じた次第であります。

日本社会は今曲がり角にあります。今まで税金で医療、介護などを支えますと一直線に進んできましたがもう限界です。今までできていたサービスもできなくなりそうです。生活に困っている人の支援ですら外していくという事です。

そこをどうするか、それが問われる段階に日本は入っています。個人や家庭はやれる限りのことは力を出しており、そういう余力はありません。しかし、日本に残っている力はあと一つだけあります。それが『地域の力、助け合いの力』です。これ以外に高齢者が増えていく中で、子どもから高齢者までしっかりみんなを支えあつて安心して暮らせる社会を実現する方法はありません。

そういうモデルを創り出すという意味で、機構はこれまでの活動で大きな役割を果たしてきました。

これからも全日遊連の皆さん方の力、熱い思いが益々求められていく10年間になるだろうと考えております。

みんなで力を合わせて前に進めれば本当に幸せだと感じております。一緒にやりましょう。ご静聴ありがとうございます。」



堀田力会長



創立10周年記念講演の様様(7月23日)